

府立高校の「定員」はゆとりがあって当然

西野田工科高校 (全・定)

布施工科高校

城東工科高校

生野工業高校

の募集停止案は撤回してください

大阪府では、「3年連続定員に満たなければ再編整備」の府立学校条例を背景に、府立高校の廃校が続いています。今年度も工業系4校の募集停止案(2025年度～)が発表されました。しかし、子どもの「学ぶ権利」保障が目的の府立高校の「定員」はゆとりがあって当たり前、廃校は道理がありません。しかも毎年の入試では「定員割れ」の何倍もの受験生が府立高校を不合格になっています。競争を煽る施策を見直し「希望者全入」こそめざすべきです。

道理のない高校つぶしはストップを！



府立高校の募集停止案

- 西野田工科(全日制・定時制) 決定は11月
→廃校にし今宮工科に機能統合
- 布施工科・城東工科
→2校を統廃合し城東工科の校地に新校を設置
- 生野工業
→2028年度(予定)に東淀工業、泉尾工業と統廃合し東淀工業の校地に新校を設置するため、他の2校に先行して募集停止

府立高校はすでに35校も廃校に



【条例制定後の廃校】(地図参照)

- すでに廃校になった学校
- 廃校方針が決定された学校
- 今回、募集停止案が発表された学校

【条例制定前の廃校(全日制)】

門真南・玉川・守口・八尾南・高槻南・上神谷・白菊・枚方西・加納・南寝屋川・横山・城山・少路・鳥飼・四條畷北・清友・西浦・砂川

大阪の高校を守る会

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11-707 ☎ 06-6768-2106 2023年9月発行

署名にご協力
ください

署名用紙は、
<http://www.fukokyo.org/>
からダウンロードできます。



ものづくりのまち 大阪の産業をつぶすな!

大阪はものづくりのまちです。事業所数で1位、従業員数で2位、出荷額で4位など、全国の製造業の大きなシェアを占めています。そして、それを支えているのが工科高校・工業高校をはじめとした府立高校の卒業生です。府内の工業系高校を卒業して就職する生徒の実に9割近くが地元企業に就職、大阪の産業の担い手として活躍しています。地元の中小企業や大企業から毎年たくさんの求人が寄せられる工業系高校をつぶすことは、大阪の産業の未来をつぶすことです。府教育委員会も、「大阪の産業基盤を支える人材を育成」するため「地域バランスを考慮」して学校数を維持すると表明してきたのに、方針を変えるなど許せません!

製造業 事業所数では 大阪が全国一

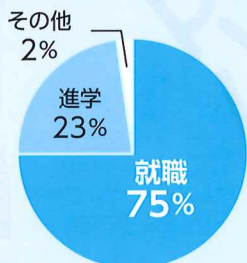
■ 製造業事業所数(2019年度実績)

順位	都道府県	事業所数
1	大阪府	15,522
2	愛知県	15,063
3	埼玉県	10,490
4	東京都	9,887
5	静岡県	8,786

※大阪府学校教育審議会答申(令和4年11月28日)より

府立高校卒業生の多くが 地元企業に就職!

府立工科高校9校の進路状況(2021年度)



の内訳



※大阪府学校教育審議会答申(令和4年11月28日)より

工業系高校つぶしやめて 関係者から不安の声!



毎年、求人を出してきたのに...

大阪府の産業人材(エンジニア)が減少し、ものづくり産業が低迷する可能性がある」と危惧している。

(就職先企業の声※大阪府学校教育審議会工業教育部会資料より)



工業高校は、普通科とは異なる独自の授業があり、日本のものづくりを支えるに当たり非常に重要と思われる。いたずらに統廃合するのはやめていただきたい。

(就職先企業の声※近畿高等学校教職員組合連絡協議会資料より)

少子化をチャンスに教育条件の改善を!

■ 1クラスの人数

OECD平均	23人
日本	32人

日本は下から2番目

※生徒数/クラス数の比較(中学校)

少子化の今、同額の財政支出を続けるだけでも教育条件の改善が可能です。将来を担う子どもたちのために、少人数学級の実現、学校の小規模化などで一人ひとりに行き届いた教育を実現することこそ行うべきです。



西野田工科高校(全・定)、布施工科高校・城東工科高校

生野工業高校の募集停止は撤回を!

道理のない高校つぶしに反対する署名

大阪府教育委員会は、8月28日の教育委員会会議で「府立学校条例、再編整備計画に基づく令和5年度実施対象校(案)」「大阪市立高校移管計画における再編整備対象校の募集停止時期(案)」を示し、「様々な意見を踏まえ、11月の教育委員会会議で最終決定する」としました。

その内容は、①府立西野田工科高校(全日制・定時制)を募集停止し、府立今宮工科高校に機能統合する、②府立布施工科高校と府立城東工科高校を統廃合し、城東工科高校の校地に新校を設置する、③すでに3校を統廃合し新校を設置する方針が示されている府立生野工業高校、府立泉尾工業高校、府立東淀工業高校のうち、生野工業高校を他の2校に先行して募集停止する、などで、実施時期は2025(令和7)年度としています。これは以下の点からきわめて不当です。

第一に、子どもたちの「学ぶ権利」を保障するために設置されている公立高校の定員には「ゆとり」があつて当然です。「定員に満たない」ことを理由に廃校にするなど道理がありません。第二に、ものづくりのまち大阪を支える人材を育成している工科高校・工業高校をつぶすことは、大阪の産業をつぶすことにつながります。第三に、少子化を理由に学校をつぶす前に、少子化をチャンスと捉え、少人数学級の実施や学校の小規模化など、教育条件の改善こそ行うべきです。

以上のことから、下記について強く要請します。

記

1. 大阪府立西野田工科高校(全・定)、布施工科高校・城東工科高校、生野工業高校の募集停止案を撤回すること。
2. 大阪の産業を支える人材を育成している工業系高校の統廃合を行わないこと。
3. 「3年連続して定員に満たない高校は再編整備の対象」としている大阪府立学校条例を抜本的に見直し、少子化をチャンスと捉え、少人数学級の実現や学校規模の縮小など、すべての府立高校の教育条件を改善すること。

大阪府教育委員会 教育長 橋本正司 様

2023年 月 日

氏名	住所

